

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol poisoning is a main determinant of recent mortality trends in Russia: evidence from a detailed analysis of mortality statistics and autopsies.</p> <p>アルコール中毒は最近のロシアの死亡率の変動の主要な要因：死亡統計と解剖の詳細な分析からのエビデンス</p>	
執筆者	
Zaridze D, Maximovitch D, Lazarev A, Igitov V, Boroda A, Boreham J, Boyle P, Peto R, Boffetta P.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Epidemiol. 2009 Feb;38(1):143-53. Epub 2008 Sep 4.	
キーワード	
アルコール中毒、死亡率、ロシア、心血管系疾患、疫学	
要 旨	
<p>背景： ロシアの最近20年間の死亡率の推移は現代先進国で前例が無い状況である。このような変動は大いに興味をそそるものであり、主要な死因の傾向を調査することで、ある死因の傾向が未解決の要因に光を当てることになるかも知れない。</p> <p>方法： ロシアにおける1991-2006年の総死亡率・特定の死亡率を分析した。1990-2004年のバルナウル市24,836例の司法解剖を血中アルコール濃度に着目して分析した。</p> <p>結果： 循環器疾患（35-69歳）と外傷（15-34歳）が1991-2006年にみられたロシアの死亡率の変動の主要な要因であった。最大の変動は直接飲酒に関係するものであった。心血管病の中では、急性・慢性虚血、動脈硬化性心疾患が属する“その他の項目”が変動を生じさせており、心筋梗塞の割合は低く比較的安定していた。解剖の結果では“その他”“分類されない”心疾患で亡くなった者で致命的または致命的である可能性が高い血中エタノール濃度の者の割合が高かった。</p> <p>結論： 1991-2004年、1998-2003年の死亡率の増加は経済的・社会的危機に一致しており、1994-1998年、2003-2006年の死亡率の減少は経済の回復に一致している。多くのアルコール関連死が循環器疾患に誤分類されているが、過剰な飲酒はロシア男性の早死の主要な要因である。</p>	